

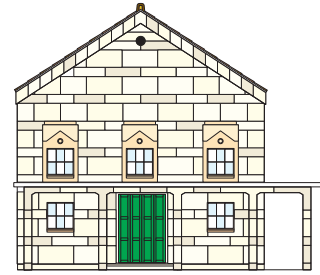
Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2018-07-01

# APM news 193

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

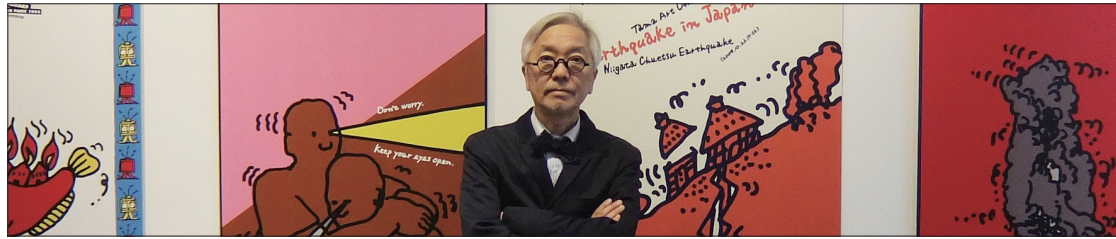
国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館



〒940-1106 新潟県長岡市内宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233

第27回企画展 秋山孝ポスター展10

### 秋山孝の神秘4 「印刷すること」「手描きすること」1



「人類の始まりと人間の始まりにはいったい何があるのだろうか。そこに美術という不思議な世界があることは間違いない。絵を描いて何を語りたいのか、何を伝えたいのか。ぼくたち人間は原始の時代から洞窟や岩壁やいたるところに想いを刻んだ。それが時代によって様々な手法を使いメッセージを視覚化し、語ってきた。

それで今回は「印刷すること」と「手描きすること」のぼくにとつてのこだわりとその神秘を解き明かしたいと考えた。何しろ始めは、描けるものがあればどんな物にも描いてきたように思うが、しかし、それはそんなに簡単ではないということを悟るまで困難をきたし、時間を要した。

そして、長い人類の歴史を学ぶ事によって多様化した技術や表現方法が目の前に存在し、さらにそれらを選択する意義と意味を考えなければならなかった。

1968年、高校生(16歳)のぼくは既にポスターの魅力の虜になっていた。それは大判印刷という魅力あるメディアがその時代の伝達ツールとして、華々しく活躍していたからだ。例えば音楽で言えばビートルズやローリングストーンズ、ボブ・ディランの音楽的メッセージとカリスマ的ヴィジュアルが、そのメディアによって遙か遠い日本までいとも簡単に送られてくる。その力は「手描き」にはない複製の力があるということを実感した。

しかし、手で描く「原画」の魅力も計り知れない力があって、ぼくの心を揺さぶるオリジナルの説得力の虜になったのも、揺るがせない事実であることは間違いない。ぼくたちは人生の道を選択するのと同じように、表現の枠組みを設定することは重要な選択である。

#### 【原画表現から印刷メディアの自立】

古い社会は芸術の魅力はオリジナル(原画)に対して、高価な評価を今でも与えている。しかし、視点を変えれば、時代を動かすには表現メディアに対する意識がどのように新時代を凌駕したかを考えるとその原画主義に対して、一石投じなければならない。先ほど述べた1960年代の音楽と大判印刷メディアは、切っても切れない関係にあり若い人々の心を鷲掴みにした。そして、さらにその時代の政治までを変えるような出来事にもなった。

それは、1968年5月に起こったパリの学生運動(パリ五月革命)に端を発し、フランス全土に広がった社会変革を求める大衆運動で、発端はパリ大学の学生が大学制度の改革を求めたのに対し大学側は拒否し、5月3日大学に集った学生を警官隊が実力で排除したことから、パリ市内で学生と警官隊が激しく衝突し、地方大学にも波及した。そして日本も同じく、1968年に東大・日大紛争と共に全国の大学へその運動が波及した。そして翌年、東大安田講堂を学生が占拠し、機動隊と衝突した。それらのメッセージとして独自に制作したポスター表現が活躍した。特に、パリ五月革命のポスター表現は、フランスのその時代の象徴として文化・芸術的評価が著しく高いものとして評価されている。

秋山 孝 (APM館長・多摩美術大学教授) 【▶次号へつづく】